



令和2年度 山形県「郷土愛を育む活動推進事業」

郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト実践記録集

山形県教育委員会



ご挨拶

山形県教育委員会では、本県教育の目指す姿と施策等を示した「第6次山形県教育振興計画」の基本方針の一つに「郷土に誇りを持ち、地域とつながる心を育成する」ことを掲げております。この取組みの一環として、児童生徒が学校の授業や地域活動の中で、自分の住んでいる地域について、学び、活動してきた成果を広く発表し合うコンテストを開催しており、今年で5回目となりました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中での開催となりましたが、コンテストの一次審査には、過去最多となる36学校、91チームのエントリーがありました。学校や児童生徒が郷土に誇りを持ち、活動していく機運が着実に浸透してきているものと考えております。

最終審査会は、身体的な距離の確保や参会者全員の検温、発表児童生徒のマウスシールドの着用など、十分に新型コロナウイルス感染症への感染予防対策をした上で開催しました。地域の特色と児童生徒の豊かな発想が反映されたテーマ設定、課題解決に向かうための主体的・協働的な学習の取組み、わかりやすくまとめられた発表まで、小学生・中学生・高校生の発達段階に応じた探究型学習の成果が披露され、質の高いコンテストとなりました。

この記録集をご覧いただき、これからの学習の更なる充実・発展に役立てていただければ幸いです。

最後に、最終審査会の司会進行を務めてくださった県立山形北高等学校放送部の皆さん、本コンテストの審査員となっただき、小学生・中学生・高校生それぞれの成長に資する的確な評価と温かい励ましの言葉をいただいた沼野慈様、堀川敬子様、渡部泰山様に、改めて深く感謝申し上げます。



山形県教育委員会教育長
菅間 裕晃

「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」とは？

<趣旨>

小・中・高校生による地域を素材とする学習及び体験活動の成果を募集し、優れた取組みを表彰することで、自分の住む地域の自然や文化、歴史、偉人などのふるさとのよさを発見・再確認し、郷土に対する愛着や誇りを育みます。これらの取組みを広く発信することで、小・中・高校生がお互いの地域のよさを知るとともに、保護者や地域住民にとっても、地域の魅力を再認識する機会にします。

<審査方法>

一次審査：審査員による書面審査で最終審査会参加校選出
(小・中・高等学校の各部門3チーム)

最終審査：プレゼンテーションによる研究発表(1チーム7分間)

審査員が発表内容を審査し、各部門において、もっとも優れたチームに「ふるさと探究大賞」を授与

開催日：令和2年11月28日(土)13:00～ 会場：遊学館

審査員

沼野 慈 審査員

企業で食品添加物や食材の研究や特許開発に従事した経験から、食の安全や女性の就労環境、子育て問題等に強く関心をもつようになり、地域活動家となる。現在、NPOもがみ理事長等を務める。

堀川敬子 審査員

東京からのUターン後、青年会議所や商工会議所青年部などで、地域活動に参画。NPO法人天童NPO支援サロン理事、山形県まちづくりサポーター等を経て、現在は「逢いの蔵」共同代表。

渡部泰山 審査員

東北芸術工科大学特命教授。専門分野は学校経営学、教育と芸術学。山形県内高校で教諭、教頭、校長を務める。山形県教育次長、山形東高校校長を歴任。山形大学の教授を経て現在に至る。

司会進行

山形県立山形北高等学校放送部 (2年生)



高橋 藍 さん



須藤 愛心 さん



佐藤 ひなた さん

小学生・中学生・高校生それぞれに合わせて言葉を選び、チームごとにコメントをそえて、心温まる司会進行をしてくれました。

スペシャルゲスト

ミッチーチェン

自ら「伝説の余興師」と名乗り結婚式やイベントの余興を中心に活動開始し、現在、テレビCM やさくらんぼテレビ「やまがたチョイス」に出演するなど多方面で活躍中。

また、山形弁でラップをする「MC GATA と BANKING」で、「帰郷これが俺の生きGATA」などを発売。

動画投稿アプリ「TikTok」では月間チャート総合1位を記録、総再生回数も3億回以上を記録するキャラクター「チェンタンソク」「トッポギとチヂミと私」でも中高生を中心に人気を博している。



令和2年度郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト 次第

日時:令和2年11月28日(土) 13:00～

場所:遊学館ホール(山形市)

司会:県立山形北高等学校放送部

1 開会式

- (1) 山形県民の歌「最上川」
村山市立楯岡小学校合唱部
- (2) あいさつ



コロナ対策のため、会場での斉唱は行わず、**村山市立楯岡小学校合唱部の皆さんが県民の歌を歌う動画を紹介しました。**

2 発表

(1) 小学生部門

- ① 天童市立寺津小学校 洪水の危険性を伝えよう
- ② 天童市立干布小学校 干布の魅力 再発見
- ③ 真室川町立真室川あさひ小学校 真室川町の伝承野菜は おいしさ 楽しさ 無限大!

(2) 中学生部門

- ① 酒田市立第六中学校 再発見 ～酒田を知り 酒田に学び 酒田のよさを発信～
- ② 東根市立大富中学校 無人直売所で地域に貢献
- ③ 朝日町立朝日中学校 Search for ASAHI ～朝日町を知る～

(3) 高校生部門

- ① 山形県立置賜農業高等学校
むくり鮎プロジェクト ～上杉鷹山公が残した伝統の食文化を守る、広める海里山連携～
- ② 山形県立酒田光陵高等学校
Get close”=cloth” to each other
～ニュージーランドと酒田市の交流からはじまる脱プラスチックレジ袋作戦～
- ③ 学校法人羽黒学園羽黒高等学校 私たちは未来の大人だ ～まちのために出来ること～

3 山形LOVEパフォーマンス 2020 スペシャルゲスト: ミッチーチェン

4 表彰式・閉会式

11月第2土曜日

は
やまがた教育の日

山形県教育委員会

郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト 小学校の部

ふるさと探究大賞

真室川町立真室川あさひ小学校

5, 6年ベンチャーキッズ

奥山永愛 奥山琉生 高橋優仁 高橋一誠 佐藤遥斗
佐藤実梨 藤原遥琉 佐藤愛桜 佐藤美咲 佐藤月渚 柿崎美紅
佐藤柚月 佐藤楓夏 高橋里桜 齊藤結愛 齋藤莉々花



真室川町の伝承野菜は おいしさ 楽しさ 無限大！

1 テーマについて

真室川町には、貴重な伝承野菜があることに気づきました。そのおいしさやすばらしさを伝承野菜の栽培・収穫、商品化、販売することを通して、多くの人に広めることをテーマとしています。

2 テーマに基づく活動について

昨年度、5年生は、甚五右エ門芋を使った商品を開発し、販売する計画を立てました。たった1件しかない栽培農家の方から教えてもらいながら、学校の畑で甚五右エ門芋を栽培しました。また、勘次郎きゅうりと弥四郎ささぎも栽培しました。まずは勘次郎きゅうりを収穫し、メニューを開発するなど、販売計画を立て、町内で実際に販売し、完売となりました。

次は、町の大収穫祭で、甚五右エ門芋やそれを使ったフォカッチャ等を販売しました。利益を考えた価格設定や役割分担などを検討し、わずか17分間で完売しました。

また、最年少野菜ソムリエプロ緒方湊さんが、1200種類もの野菜の中で一番好きな野菜は甚五右エ門芋であるということを知り、湊さんに手紙を書き、交流できることになりました。



今年度は、湊さんから野菜雑誌が届きました。今年度の5年生からも伝承野菜日誌を送り、昨年度の5年生からつながりを引き継いでいます。

また、栽培活動と併せて、「チャレンジ！お菓子株式会社」という学習を行いました。株式会社の仕組みやパッケージ作成の工夫を学び、販売活動に生かしました。

伝承野菜スイーツを開発・販売する際には、地元のお菓子屋さんからヒントをもらいました。1回目の販売は、1時間20分で完売しました。お客様への気配りをする仲間の行動にも気づき、おもてなしの心を学びました。

2回目の販売と湊さんとの交流会に向け、①世界に一つだけのスイーツ開発 ②伝承野菜キャラクターの開発 ③雨でも風でも破れないのぼり旗 ④

伝承野菜の魅力を伝えるチラシ作りの4点を工夫しました。

交流会では、5年生は、自ら開発したロールケーキをはじめ6品を販売、6年生は、昨年度開発したメニューなどでレストランを開きました。湊さんにも呼び込みなど協力してもらい、どれも完売となりました。



この学習を通して、伝承野菜のおいしさとすごさを改めて実感しました。また、積極的に動くようになった、実行力がついたなど、自分の成長に気づき、自信ができました。

3 これからの活動に向けて

これからも、真室川町の伝承野菜の魅力を誇りを持って伝え、多くの人に広げていきたいと考えています。



郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト 中学校の部

ふるさと探究大賞

朝日町立朝日中学校

第1学年自治会

佐久間陽菜乃 浅岡亜美 佐久間淳乃介

阿部佑音 海野結菜 白田夏希



Search for ASAHI ～朝日町を知る～

1 テーマについて

「Search for ASAHI ～朝日町を知る～」は、2本の柱になっています。

①朝日町探究プロジェクト

自然・歴史・人・りんごを切り口に、個人の探究テーマを設定し、より深く調べる。

②りんご探究プロジェクト

りんご栽培体験学習を通して、文字入りの「合格りんご」を作る。



2 テーマに基づく活動について

「朝日町探究プロジェクト」の個人の探究テーマの一例として「自然」では「自然を活かした観光資源」について調べています。「歴史」では「ハツ沼の七不思議」、「人」では「朝日町の人口減少を止めるための方法と提案」、「りんご」では「りんごの可能性は無限～あたらしい品種の提案～」などのテーマがあります。

例えば、「知らない！と非町民？りんごについての基本の『キ』」では、朝日町

民としての基礎知識を調べるために、全校生徒にりんごについてアンケートを取りました。現在、レポートをまとめている途中ですが、考え方の裏付けとなるデータが大切だと実感しています。また、「りんごの可能性は無限～あたらしい品種の提案～」では、シナノスイートとシナノゴールドをかけ合わせた新しい品種「ゴールデンスイート」を考えることなどを通して、理科の知識や美術のデザイン思考を活かすことができました。

探究レポートを作成するために、新聞の見方・読み方講座において、どのように情報を収集し、活用していくかを学んだり、4つのテーマごとに、地域の先生方から話を聞いたりしました。

「りんご探究プロジェクト」では、摘果作業、文字シール作りとシール貼り作業、収穫作業など、実際に、りんごを栽培し、合格りんごを作る体験をしました。3年生一人ひとりに、私たちのメッセージをそえて、合格りんごを贈呈しました。



3 これからの活動に向けて

2つの探究プロジェクトを通して、朝日町を深く知り、よさを再発見することができました。

今後も、地域の先生方からお話を伺いながら、個人探究レポートを作成します。そして、「深い学び報告会」を開催するとともに、「朝日探究報告書」としてレポートを集約し、自分たちの深い学びの足跡を残していく予定です。



郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト 高等学校の部

ふるさと探究大賞

山形県立置賜農業高等学校

鮎っ子プロジェクト

坂部 響 齊藤桃花 佐藤実優 高野瑚々亜
西村明純 佐藤莉々輝



むくり鮎プロジェクト ～上杉鷹山公が残した伝統の食文化を守る、広める海里山連携～

1 テーマについて

むくり鮎の食文化を守りたいと考え、以下の研究目標を立てて活動しています。

- ① 鷹山公が残した伝統の食文化を守り、広めるため、鮎の養殖技術と、むくり鮎の加工技術の習得
- ② むくり鮎の伝承や出前授業による環境意識の向上
- ③ 新しい鮎加工品への挑戦や海と里山の連携

2 テーマに基づく活動について

水田養魚研究会、内水面水産研究所の方からご指導いただき、産卵・ふ化・餌付けに取り組みました。コロナ禍にあり、準備が遅れ、ふ化数は少なかったのですが、養殖技術は身につきました。直径5メートルの池の他に、水槽でも養殖を行い、インビトロ(可視的)観察を行いながら、発育調査を行いました。



成長したむくり鮎を水揚げし、加工技術の講習を行いました。約100尾で背開き、味付け等加工し、むくり鮎の加工技術を習得しました。試食会アンケート等を行い、むくり鮎の食文化を伝承しています。小さな鮎は、水槽でヒーターを使って育て、春からは田んぼで育てました。加茂水産高校との農水連携を行い、缶詰加工実習を行うこともできました。

伝承活動としては、玉庭小学校での飼育活動を行いました。また、昨年度

から行っている人形劇には、新しいキャラクターも登場させ、いろいろな学校で人形劇を開催します。さらに、むくり鮎弁当を作り、子ども食堂と連携して、むくり鮎の普及に取り組んでいます。

栄養成分の算出では、カルシウムはもちろん、オメガ3と呼ばれる必須脂肪酸の含有量も産出されました。



3 これからの活動に向けて

今後はエゴマなど、 α 脂肪酸を含んだ餌の給与で、鮎のEPAやDHAを増やす研究、鮎の水田養殖の拡大、むくり鮎や鮎缶のブランド化を進め、伝統の食文化伝承を進めます。



郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト 小学校の部

優秀賞

天童市立寺津小学校

寺津6年1組 防災対策班

太田聖也 小林悠真 村上直太郎 大石深月

大石優奈 奥山寧音 柿崎姫夏 高橋瑞己



洪水の危険性を伝えよう

1 テーマについて

寺津は最上川と須川の合流地点にあり、川が氾濫すると浸水の危険があります。川が氾濫すると寺津がどうなるのか調べ、わかったことを地域の人に伝えたいと思いました。洪水の危険性を知ってもらい、自分達だけでなく地域の人の命も守りたいと考えました。

2 テーマに基づく活動について

ハザードマップを見ると、寺津は赤く染められています。天童市の防災担当の方にお話をお聞きし、ハザードマップは、安全な避難経路や浸水する危険のある箇所を表していて役に立つこと、屋外スピーカーに頼らず、早めの避難をするのが重要なことだと教えていただきました。

今年の7月28日、大雨による最上川の氾濫を実際に経験しました。自分の命を守るために、自分で考え行動することの大事さを学びました。また、大石田に水門観測員の方がいることを新聞から知りましたが、寺津にも水門観



測員の方がいることを知り、直接お話をお聞きしました。大雨の日の午後4時ごろ、水門を閉めたそうです。そのおかげで被害が最小限に食い止められたと思いました。地区の防災訓練の日に、水門観測員の方と消防団の方に、手作りの感謝状を贈りました。

昨年度から、やまがたメーカーズネットワークの方と那須電機の方にご協力いただき、3Dプリンターで寺津地域の模型を作り、洪水実験を行っています。昨年の実験では、落合、新田、寺津の順に浸水しました。しかし、7月豪雨では結果が違いました。そこで今年は、

寺津周辺の地域も模型に入れて実験を行いました。その結果は、7月豪雨と同じように寺津から浸水しました。新田の水門を先に閉めたことを地域の方にお聞きし、浸水は水門と関係することがわかりました。実験の結果から、落合、寺津と浸水すること、中山町や乱川周辺も浸水することもわかりました。



3 これからの活動に向けて

今回の学習を通して自分ごとで考える大切さを知りました。

寺津の町、寺津の人、寺津の命を守るために、これからも行動していきます。

郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト 小学校の部

優秀賞

天童市立干布小学校

6年1組

工藤理紗 富樫柚香 蜂谷友希

兵藤はな 三沢くるみ



干布の魅力 再発見

1 テーマについて

干布小学校では、東京都新宿区立四谷小学校との交流を47年間続けてきました。しかし今年度は、コロナ禍により夏と春の交歓会を中止しなければならなくなりました。そこで、直接会って交流することができないのであれば、別の形で交流することができないかと考え、本テーマを設定しました。

2 テーマに基づく活動について

夏の交歓会が中止決定後、干布地区青少年育成会から四谷小へさくらんぼを送ることになりました。そこで、6年生で話し合い、一緒にビデオメッセージを送る計画をたてました。ビデオで何を伝えるか、どう伝えればいいのかを考え、山形の食べ物や干布小に関わること等を伝えることにしました。グループごとにクイズ形式やレポート形式にしてビデオに収録し、さくらんぼとともに四谷小へプレゼントしました。

7月下旬、地区の方から、交歓会の



歴史や内容について教えていただき、長い歴史や干布の自然を生かした活動内容がわかり、干布のことをもっと知ってもらいたいと思うようになりました。そこで、干布に来られなかった四谷小の皆さんのために、干布だからこそ体験できることを動画にまとめて紹介することになりました。「おいしい果物紹介」「四谷小の皆さんが干布に来たら一緒にしたかったこと」「学校周辺の自然の紹介」について動画にまとめました。動画は、学校のコンピュータを使って、テロップを入れたり、BGMをつけたりして、自分たちで編集しました。四谷小の児童が干布に来られなかった分、干布の

よさや楽しさをより感じられるように、花火や民泊の楽しさを劇にして工夫しました。

四谷小の皆さんに紹介するために、東京にはない干布ならではのことを考えたことで、「家の庭で花火ができること」「果物がたくさんあること」「学校の裏にカナチヨロが住んでいること」など、今まで当たり前と思っていたことが山形や干布の魅力の一つだとわかりました。また、直接会えなくても、いろいろな方法で交流できることがわかり、リモートによる交流も計画にあげられていました。



3 これからの活動に向けて

干布のよさや魅力を感じることができた今回のこの活動を生かし、干布地区の自然も人も大事な宝として大切にしていきたいです。



郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト 中学校の部

優秀賞

酒田市立第六中学校

ろっくんスター(酒田六中3年)

飯倉優里奈 佐藤珀琉 中川仁乃

早藤海音 斎藤真由



再発見 ～酒田を知り 酒田に学び 酒田のよさを発信～

1 テーマについて

わたしたちの学校では、1年生では「地域を知る」、2年生では「地域に学ぶ」、3年生では「地域を考える」という視点のもと、総合的な学習の時間の目標を『いのち輝く～自分を見つめて、未来を見つめて～』として、学習に取り組んでいます。

2 テーマに基づく活動について

1年生は、「地域を知る」として、庄内米歴史資料館(山居倉庫)、本間美術館、酒田市資料館など、全体で20か所の「ふるさと探訪」を行いました。

「ふるさと探訪」のまとめとしてパンフレットにまとめ、酒田市の観光施設においてもらいました。また2018年に寄港したクルーズ船の乗客には、英語で会話をしながら配りました。

2年生は、2日間の日程で、地域の事業所、店舗等32か所から協力していただき、職場体験学習を行いました。挨拶の大切さや働くことの大変さ、おも



てなしの心など多くのことを学ぶことができました。学んだことをレポートにまとめ、発表し合い、様々な職業について知ることができました。

3年生は、毎年、修学旅行先でのパンフレット配布を行っていますが、今年度は修学旅行がコロナ禍の影響で中止になったため、配布ができませんでした。そこで、銀座にある山形のアンテナショップにおいてもらいました。また、昨年度の職場体験でお世話になった庄内地区の病院に、コロナ禍で働いていただいていることへの感謝のメッセージと傘福を3年生全員で作成し、代表者が届けました。

酒田六中には地区生徒会という組

織があり、その組織を中心に、地域の方々に元気と感動を届けるための地域貢献活動として、夏休みや休日に地区運動会、防災訓練などの地域行事や公園清掃、自治会館清掃、夏祭りの手伝いなどを行っています。さらには、生徒会メンバーが企画してのボランティア活動も行っています。学校周辺や地下道の清掃など、多くの有志が参加しての活動となりました。

このような活動を通して、酒田のよさを感じ、自分の将来についても考えることができました。



3 これからの活動に向けて

これからも、地域の方々に元気と勇気を届け、地域の伝統文化の継承に貢献できるような活動をさらに考えていきます。

東根市立大富中学校

大富農業カンパニー

沓澤魁良 赤塚奏音



無人直売所で地域に貢献

1 テーマについて

道徳の授業で無人直売所の学習をした僕たちは、大富農業カンパニーを立ち上げ、野菜を育て、無人直売所を設置し、販売することにしました。この活動を通して、大富地区に貢献したいと考えました。



2 テーマに基づく活動について

直売所を学校の敷地内に設置することを、校長先生と「契約をかわす」形で行い、12項目について「合意」し、活動の基盤としています。

直売所の収穫物を置く棚は自分たちで作りました。「協力」を合言葉にして、頑張りました。

オープンすることは、事前にチラシを貼ってお知らせし、当日は、それを見た地域の皆さんが来てくれました。

日頃の活動は、日の出とともに畑に行き作業をしてから学校に行き、学校から帰ると、また畑に行きます。収穫した野菜は、朝または夕方に収穫・袋詰めをし、無人直売所に出しています。無農薬栽培をして、新鮮で安心・安全な商品をお客様に提供しています。

売り上げは学校と折半し、学校には全校生に役立つ必要なものを買ってもらいます。大富農業カンパニーは、野菜の苗代や資材代に使っています。

7月の豪雨で、畑の隣の小見川が氾濫し、畑が浸水したため、芽が出ない野菜もありましたが、復活した苗もあり、活動を続けてきました。

無人販売所には、お客様からの声をいただくためにメモ用紙を置いてあります。温かい言葉をたくさんいただき、ぼくたちも頑張ろうと思っています。その中でも鶴岡の方が大富中にお電話をくださいました。学校にも来てくださり、農業など様々なお話をしました。遠方の方との交流ができてうれしく思いました。これからも、このように応援して下さる

お客様を大切にしていきます。

これまで、シシトウ、トウモロコシ、ナス、トマト、ネギなどを販売してきました。中には、大富の「ドッコ水」で洗った大根の葉なども出し、大富の味になるように工夫してきました。

冬でも野菜を販売するために、学校で見つけたビニールハウスを組み立てました。現在は、ほうれん草を育てることを考えています。



3 これからの活動に向けて

大富農業カンパニーは、お金を儲けるための活動ではなく、野菜の販売を通して、地域に貢献し、地域の方と交流するために無人直売所の活動をしています。大富という地域に、そして山形に、果ては世界に貢献できる大富農業カンパニーを目指します。



郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト 高等学校の部

優秀賞

山形県立酒田光陵高等学校

チーム as One(3年次 ビジネス流通科)

佐藤海月 佐藤心美



Get close”=cloth” to each other
～ニュージーランドと酒田市の交流からはじまる脱プラスチックレジ袋作戦～

1 テーマについて

わたしたちは、ニュージーランドと酒田をPRすること、海洋プラスチック減少のためのレジ袋に代わるあずま袋を作ることを通して、4つの課題を解決したいと考えています。

- ① 庄内沖・飛島の海洋プラスチックごみの増加
- ② NZホストタウンの酒田市民へのPR不足
- ③ 地元の伝統産業の維持
- ④ 障がい者の方の働く機会の減少

2 テーマに基づく活動について

庄内沖・飛島の海洋プラスチックごみが増加している問題を解決するために、レジ袋に代わるものとして、手ぬぐい・あずま袋作りしました。クルーズ船で酒田へ来た方やニュージーランドトライアスロン選手の皆さんなどへのおもてなし活動を通して、あずま袋をお渡ししました。

酒田市は、東京オリンピック・パラリンピック 2020 トライアスロンニュージー



ランドのホストタウンになっていますが、酒田市民へは浸透していない状況です。そのことをPRする商品を作ろうとも考えました。デザインは、ニュージーランドとの繋がりがわかるよう工夫しました。

地元の伝統産業を活かした商品にするために、大漁旗、袴天、のぼりなどを製作している斎藤染工場さんに染めていただきました。酒田で親しまれてきた手ぬぐいや風呂敷等の染め物を知ってもらえる商品となるようにしました。

障がい者の方の働く機会が、コロナ禍によりさらに減少しているという実情から、手ぬぐいからあずま袋にするための縫製をお願いし、1枚当たり工賃として300円をお支払いしています。

制作した手ぬぐいとあずま袋を、まずは市役所の一角をお借りして販売しました。そして、本日、酒田市の新しい駅前施設『ミライニ』で販売し、25枚が売れました。



3 これからの活動に向けて

今後目指すことは、1枚の布で様々なことに使え、1枚持っていればどんな時でも役立つ風呂敷を広めることです。その風呂敷は、全て山形県産の材料で作りたいと考えています。また、酒田市の交流観光課の方にニュージーランド大使館に連絡を取ってもらい、ニュージーランドでの販売を行いたいと考えています。



郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト 高等学校の部

優秀賞

学校法人羽黒学園 羽黒高等学校

齋藤 愛彩



私たちは未来の大人だ ~まちのために出来ること~

1 テーマについて

私は、「若者が自分を信じ、行動できる場を作りたい。そして、ふるさとを、そんな若者が作る希望のある場所にしていきたい。」と考え、遊佐町少年議会での活動に取り組んでいます。具体的には、「中高生の居場所づくり」、「若者の地域への愛着・当事者意識の醸成」などをテーマとしています。

2 テーマに基づく活動について

遊佐町少年議会の活動では、中高生が自分たちで考えた政策を町へ提言したり、実際に実行したりすることができます。私は入った当初、自分の住みたい町をつくるのは大人だけだとも思っていました。活動の中で、より深く町に触れ、支えてくれる仲間や大人と出会ったことで、自分が街を変えられるようになるようになりました。

町当局に対して一般質問を行うこともでき、町内施設の改修や観光地へ



の案内看板の設置など、様々な要望が実現しました。

しかし、少年議会の活動を理解しているのは、町の中高生の15%と少ない実情から、この活動を若者に広めることが必要と考えました。そこで、第16期少年議会で、ユースセンターの設置を提言しました。ユースセンターとは、若者の行動を後押しするとともに居場所にもなる施設で、私は、町には若者が安心して、行動の一步目を踏み出せる環境が必要だと考えました。結果として、最低限の若者の居場所として、翌年、図書館内に勉強スペースが設

けられました。自分の考えが町に理解され、形にできましたが、勉強スペースとしての設置では、大人と中高生の交流や、若者の主体性の尊重がないことが課題と考えています。

この経験を通して、私は若者と大人が、対等の立場で活動できる場をつくりたいとより強く思うようになりました。実現のためには、町をより深く理解し、周囲を巻き込み、場をつくる知識やスキルも必要だと考えています。



3 これからの活動に向けて

私は大学へ進学して、まちづくりについてさらに学問的に学び、若者が町づくりできる場をつくり、ふるさとから希望に満ちた山形をつくっていきたく思います。

応募校・チーム一覧

- 【山形市立蔵王第一小学校】 白都花1組環境保全隊 【天童市立寺津小学校】 寺津6年1組 防災対策班
 【天童市立干布小学校】 6年1組 【寒河江市立幸生小学校】 5, 6年複式学級
 【朝日町立宮宿小学校】 3年生 6年生 【真室川町立真室川あさひ小学校】 5, 6年ベンチャーキッズ
 【鶴岡市立黄金小学校】 ゴールデンスマイル(4年1組) ゴールデンライス(5年1組)
 【鶴岡市立大泉小学校】 5年生 【遊佐町立吹浦小学校】 6年1組
 【山形大学附属小学校】 3・4年複組 4年1組1班 4年1組2班 4年1組3班 4年1組4班
 4年1組5班 4年1組6班 4年1組7班 5年3組
- 【朝日町立朝日中学校】 1学年自治会 【東根市立大富中学校】 大富農業カンパニー
 【戸沢町立戸沢中学校】 小林芽生・横山翔太 横山史奈・小林蒼治
 【酒田市立第六中学校】 ろっくんスター(酒田六中3年) 【遊佐町立遊佐中学校】 第1学年
 【山形大学附属中学校】 第2学年 1組1班 1組2班 1組3班 1組4班 1組5班 1組6班 1組7班
 2組1班 2組2班 2組3班 2組4班 2組5班 2組6班 2組7班
 3組1班 3組2班 3組3班 3組4班 3組5班 3組6班 3組7班
 4組1班 4組2班 4組3班 4組4班 4組5班 4組6班 4組7班
- 【山形東高等学校】 山川真一 スイーツマスター やまがたスポーツ発展プロジェクト
 菅原愛美・押野さくら・山崎瑞歩 子どもの遊び場チーム
 【山形西高等学校】 放課後実験倶楽部 【山形北高等学校】 武田真優 五島さくら
 【山形工業高等学校】 元気プロジェクト 【山形中央高等学校】 若者・よそ者・バカ者の会
 【上山明新館高等学校】 情報処理部 【寒河江工業高等学校】 工業研究会 E 科
 【谷地高等学校】 やち高プロジェクト 家庭クラブ(探究活動班) 【左沢高等学校】 ATERA 応援隊
 【東桜高等学校】 札幌便利用拡大プロジェクト班 村上心菜・高橋瑠乃葉 白田みさき・信夫ゆかり・保科紗葵
 【新庄北高等学校(全日制)】 中島諒 【新庄北高等学校(定時制)】 叶内雅華・皇腹麻菜 佐藤飛龍
 【米沢興譲館高等学校】 金原ことの Café Circle KOJO 栄養の科学班
 【置賜農業高等学校】 鮎っ子プロジェクト 【南陽高等学校】 南陽市広め隊
 【鶴岡南高等学校】 鶴南数学ゼミ 鶴南英語ゼミ 高橋瑠莉花 地域活性化ゼミ 食文化班 地域活性化ゼミ SNS 発信班
 【庄内農業高等学校】 「庄内麩」研究チーム 野菜・食育班
 【酒田光陵高等学校】 チーム坊意頭(ボーイズ) as One(アズ ワン)
 【遊佐高等学校】 ゆざらぼ 【羽黒高等学校】 齋藤愛彩
 【高校連合】 WATS(新庄北高 新庄南高 鶴岡南高 霞城学園高 新庄神室産業高)

令和2年度応募数
 小学校 20 チーム(10 校)
 中学校 34 チーム(6 校)
 高校 37 チーム
 (20 校 高校連合1)

総 評

小学校の部



沼野 慈 審査員

今回のコンテストから、小学生の皆さんが、中・高校生と同じようなプレゼンテーション形式での発表を行いました。素晴らしい発表に深く感動しました。

実験と実際に起こったこととの違いに着目し、更に確かめる行動を起こしていること、交流方法を工夫して、コロナ禍の中でも、新しい交流の在り方を切り拓いていること、伝承野菜を栽培するだけでなく、メニューの開発や販売戦略の検討などを通して、地域へより踏み込んで関わろうとしていること、取組みの一つ一つが素晴らしいと思いました。自分のふるさとをたくさん自慢して、これからもふるさとを大切にしてほしいと思います。

中学校の部



堀川 敬子 審査員

皆さんの発表を見て、「山形の未来は明るい」と感じています。

「地域を知る」ということから学び始め、学びを発展させていく取組みがありました。「知る」から始めることは、学びの基本となります。それをしっかり実行していました。また、思いついたことを行動にしていく行動力と、それを支えるまわりの方の懐の深さに感動しました。

皆さんが経験してきた考えること、調べること、発信することは、大きな財産になります。また、皆さんの学びに向かう姿勢を支える大人たちが、もっと子どもたちの思いや考えを聴いていく社会が変わっていければいいという願いも強くしました。

高等学校の部



渡部 泰山 審査員

今回のコンテストでは、小・中・高等学校と学びを接続させながら成長していく姿が、児童生徒の皆さんから伝わってきました。

活動が壁に阻まれたときに、分野の異なる学校とコラボレーションしようとする発想、科学的データを基にした取組み、地球規模の課題を通して地域を見るものの見方、地元の伝統と個性を活かすことや多様性へ対応しようとするなど、人との出会いの中で自己存在感を強め、地域にアクションを起こしていることなど、どの学びも素晴らしいものでした。そして、学びを支える地域の存在を強く感じました。素敵なコンテストにしてくれた皆さんと、コロナ禍の中でも、人から学ぶための工夫に努め、実現させてきた先生方、支えてくださった地域の方々へ深く敬意を表します。